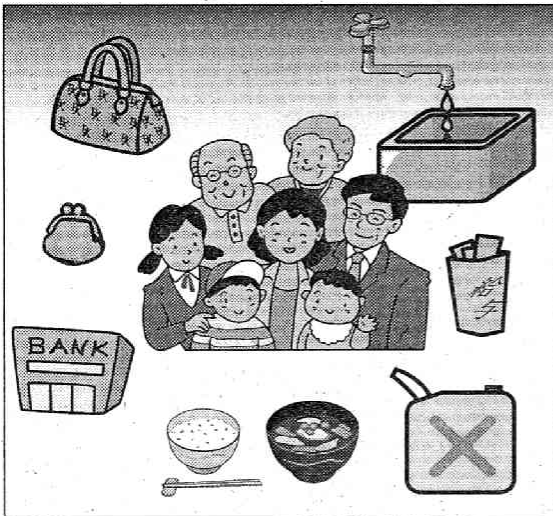


医療費210万、教育に85万円

借り入れ
減ったが
借金残高925万円

松本市が十九日に発表
した新年度の一般会計の
当初予算案を家計に置き
換えると、不景気を脱却
して何とか世帯主の収入
が増えたものの、まだま



だ支出が多く、銀行など
から借り入れなければ生
活が成り立たない世帯の
姿が見えてくる。予算案
を二分分の一に圧縮し、
家計に例えてみた。

二人の子供を持つ会社
員・スゲノやさんの年間
給与(市税)は前年度よ
り二十七万円増えて三百
六十五万円になった。二
年連続で給与が増え、勤
務先が長引く不況から脱
却したことを実感でき
た。

しかし、「給与が増え
たんだから仕送りは少な
くていいだろう」と、両

親がくれる仕送り(地方
交付税)は、前年度より
三万七千五百円減らされ
た。会社勤めの長男の給
与(国、県支出金)も、
リストラが続いており約
三万円の減収だ。将来的
に両親と一緒に住むため
に住宅のバリアフリー化
を進めているが、その資
金約六十八万円(市債)

は銀行から借り入れなけ
ればやりくりできない。
借り入れも含めた一家の
総収入は前年度より約四
万円少ない八百八万円に
なった。

支出は、両親の介護サ

ービスに使う費用(民生
費)が年を重ねることに
増え、前年度より約五万
円多い二百十万円が必要
だ。家屋や敷地の維持管
理・修繕にかかる費用
(土木費)は前年度より
二十一万円切り詰め、八
十八万円にした。大学に
通う長女に使うお金(教
育費)は、前年とほぼ同
じ八十五万円を予定す
る。住宅や自動車のロー
ン返済(公債費)にも百
十五万円が必要だ。

スゲノや家では銀行な
どへの借金の残高が一千
万円の大台に乗ってしま
わないか心配していたけ
れども、借金の返済より
借り入れを少なくした結
果、前年度に九百三十五
万円だった借金残高(市
債残高)を九百二十五万
円にすることができた。